

# 社会福祉法人ひなたぼっこ定款（変更後）

## 第1章 総則

### （目的）

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

#### （1）第1種社会福祉事業

（イ）軽費老人ホーム（ケアハウス）事業の経営

#### （2）第2種社会福祉事業

（イ）通所介護事業の経営

（ロ）認知症対応型共同生活介護事業の経営

（ハ）児童福祉法にもとづく障がい児通所支援事業

### （名称）

第2条 この法人の名称は社会福祉法人ひなたぼっこという

### （経営の原則等）

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上ならびに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### （事務所の所在地）

第4条 この法人の事務所を長野県諏訪郡富士見町富士見 11650-1 に置く。

## 第2章 評議員

### （評議員の定数）

第5条 この法人に評議員 8 名以上 10 名以内を置く。

### （評議員の選任及び解任）

第 6 条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事 1 名、事務局員 1 名、外部委員 1 名の合計 3 名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ賛成することを要する。
- 6 評議員選任・解任委員の任期は 4 年とする。

(評議員の任期)

第 7 条 評議員の任期は、選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 評議員は、第五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお、評議員としての権利を有する。

(評議員の報酬)

第 8 条 評議員の報酬は無報酬とする。なお、費用弁償分については報酬などに含まない。

### 第 3 章 評議員会

(構成)

第 9 条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第 10 条 評議員会は次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬などの額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認

(9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第 11 条 評議員会は定時評議員会として毎年度 5 月に 1 回開催するほか、必要がある場合に臨時に開催する。

(招集)

第 12 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第 13 条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当る多数をもって行われなければならない。

(1) 監事の解任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 15 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 14 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員の内から選出された議事録署名人 2 名がこれに署名し、または記名押印する。

## 第 4 章 役員及び職員

(役員の数)

第 15 条 この法人には次の役員を置く。

- (1) 理事 7名以上9名以内とする。
  - (2) 監事 2名とする
- 2 理事の内1名を理事長とする。4名を常任理事（業務執行理事）とする。

（役員を選任）

第16条 理事及び監事は評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び常任理事（業務執行理事）は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、常任理事（業務執行理事）は理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び常任理事（業務執行理事）は、2ヶ月に1回以上、自己の職務の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員任期）

第19条 理事又は監事の任期は選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 理事又は監事は、15条に定める定数にたりなくなるときは、任期の満了、又は辞任により退任した後も新たに選任された者が就任するまで、なお、理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員解任）

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えられないとき。

(役員報酬等)

第 21 条 理事の役員報酬は無報酬とする。費用弁済分については報酬などに含まない。

- 2 監事の役員報酬は年 8 万円とする。夏と冬に分けて支給する。費用弁償などについては報酬等に含まない。

(職員)

第 22 条 この法人に職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」は理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

## 第 5 章 理事会

(構成)

第 23 条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第 24 条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第 25 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第 26 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示を示したとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 27 条 理事会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。

2 署名、又は記名押印する者は、当該理事会に出席した理事長及び監事とする。

## 第 6 章 資産及び会計

(資産の区分)

第 28 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、その他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の 4 種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 土地
- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 所在 | 長野県諏訪郡富士見町富士見字南原山 11650 番 1 |
| 地積 | 624.44 m <sup>2</sup>       |
| 所在 | 長野県諏訪郡富士見町富士見字南原山 11650 番 3 |
| 地積 | 763.19 m <sup>2</sup>       |
| 所在 | 長野県諏訪郡原村字南原 18638 番 1       |
| 地積 | 3173 m <sup>2</sup>         |
| 所在 | 長野県諏訪郡原村字南原 18638 番 5       |
| 地積 | 8.20 m <sup>2</sup>         |
| 所在 | 長野県諏訪郡原村字南原 18638 番 6       |
| 地積 | 3306 m <sup>2</sup>         |
| 所在 | 長野県諏訪郡原村字南原 18638 番 9       |
| 地積 | 227 m <sup>2</sup>          |
| 所在 | 長野県諏訪郡原村字南原 18639 番 9       |
| 地積 | 0.03 m <sup>2</sup>         |
- (2) 建物
- |        |                                             |
|--------|---------------------------------------------|
| ①所在    | 長野県諏訪郡富士見町富士見字南原山 11650 番地 1、<br>11650 番地 3 |
| 家屋番号   | 11650 番 1                                   |
| 種類     | 養護所                                         |
| 構造     | 木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建                              |
| 床面積    | 181.80 m <sup>2</sup>                       |
| (付属建物) |                                             |
| 種類     | 倉庫                                          |
| 構造     | 鉄骨亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建                              |
| 床面積    | 48.60 m <sup>2</sup>                        |
| ②所在    | 諏訪郡富士見町富士見字南原山 11650 番地 3、11650 番地 1        |
| 種類     | 養護所                                         |

構造	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板ぶき 2 階建
家屋番号	11650 番 3
床面積	1 階 312.0 m <sup>2</sup> 、2 階 312.0 m <sup>2</sup>
③所在	長野県諏訪郡原村南原 18638 番地 1
家屋番号	18638 番 1
種類	養護所
構造	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき 2 階建
床面積	3,839.78 m <sup>2</sup>

- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産及び収益事業用財産は、第 36 条に掲げる公益を目的とする事業及び第 37 条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

#### (基本財産の処分)

第 29 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、長野県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、長野県知事の承認は必要としない。

- 1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合。
- 2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調路線に係る担保に限る。）

#### (資産の管理)

第 30 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

#### (事業計画及び収支計算)

第 31 条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を得なければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第 32 条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
  - (5) 貸借対象表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号、第 4 号及び第 6 号の書類については、定時評議員会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
- 3 第 1 項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に 5 年間備え置きするとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
- (1) 監査報告
  - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
  - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
  - (4) 事業の概要などを記載した書類

(会計年度)

第 33 条 この法人の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第 34 条 この法人の会計に関しては、法令及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規定により処理する。

(臨機の措置)

第 35 条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の 3 分の 2 以上の同意がなければならない。

## 第 7 章 公益を目的とする事業

(種別)

第 36 条 この法人は、社会福祉法第 26 条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。



- (1) 居宅介護支援事業
  - (2) 介護保険法に規定する介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業
- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

## 第8章 収益を目的とする事業

### (種別)

第37条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、次の事業を行う。

### (2) 太陽光発電事業

- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

### (収益の処分)

第38条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

## 第9章 解散

### (解散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

### (残余財産の帰属)

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人の内から選出されたものに帰属する。

## 第10章 定款の変更

### (定款の変更)

- 第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、長野県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く）を受けなければならない。
- 2 前項の厚生労働省令で定める事項に定款の変更をしたときは遅滞なくその旨を長野県知事に届けなければならない。

## 第 12 章 公告の方法

(公告の方法)

第 42 条 この法人の公告は社会福祉法人ひなたぼっこの掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第 43 条 この定款の施行についての細則は理事会において定める。

### 附則

1 この法人の設立時の役員、評議員は、次の通りとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	森 正明
理事	上嶋朝彦
〃	菊池敏郎
〃	斉藤和芳
〃	田辺益行
〃	手島美香
〃	樋口雅之
〃	山下明美
〃	斉田喜代光
〃	雨宮一明
〃	山崎 諭
監事	菊池周吾
〃	北原光比
〃	西尾三雄